

情報連絡員報告総括表(令和5年8月期)

富山県中小企業団体中央会

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	醤油・味噌製造業	↑	→	↑	→	↓	→	→	→	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・売上は順調に回復し、コロナ禍前の水準を取り戻しつつある。</li> <li>・観光客数や飲食店の来店客数がコロナ禍前の水準に戻りつつあることで、業務用向けの商品の伸長が著しい。</li> <li>・原材料やエネルギー価格の高騰などにより、組合員の経営は厳しい状態が続いている。</li> <li>・更に、最低賃金の引き上げにより、中小企業の経営はますます厳しくなっている。</li> </ul>
	パン製造業	↓	→	→	→	↓	↓	→	→	↓	<ul style="list-style-type: none"> <li>・猛暑によりパンの売上が減少している。</li> <li>・原材料価格の値上がり止まらない。</li> <li>・消費者の生活防衛意識が強く、販売価格を上げると売れなくなる。</li> </ul>
	豆腐製造業	↓	↑	↑	→	↓	↓	→	↓	↓	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高温乾燥傾向の天候が続き、県産大豆について生育不良の圃場が散見されている。今後の天候次第で収穫量や粒度などに影響が出るため、注視が必要である。</li> <li>・消費者の節約志向と低価格の細分化により、価格転嫁後、売上が伸びていない。</li> </ul>
繊維工業	ニット製造業	→	→	↑	→	→	→	→	→	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自動車関連は回復傾向にある。</li> <li>・値上げ交渉が改善に向かっているため、収益も改善傾向にある。</li> <li>・人材確保が課題である。</li> </ul>
	絹人織織物製造業	↓	→	↑	→	↓	↓	→	→	↓	<ul style="list-style-type: none"> <li>・化合繊維物、絹織物共に、売上は減少、円安により輸入原材料も徐々に値上がりしており、収益も悪化している。</li> <li>・ガソリンや食品等の値上がり止まらず、消費者は生活必需品の購入を優先し、織物などの商品購入には消極的である。</li> </ul>
	綿・スフ織物業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受注状況は横ばいが続いているが、諸経費の高騰が収益を圧迫している。</li> </ul>
木材・木製品	一般製材業	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	→	↓	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新設住宅の着工は木材利用の大半を占めるが、富山県の新設住宅着工戸数は前年同月比で7.9%減と大幅な減少が続いている。</li> <li>・荷動きが鈍く客足が悪いなど需要の低迷に加えて、電気代、運賃、燃料代、人件費などのコストアップが要因となって、木材関連事業者の経営状況は非常に厳しくなっている。</li> <li>・県産材素材価格は、昨年夏から下落傾向が続きウッドショック前に近い水準に戻りほぼ横ばいで推移しているが、木造が主体である持家の着工動向へは反映しておらず、落ち込みが続いている。</li> </ul>
	その他の木製品製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし。</li> </ul>

印	刷印 刷業	↗	→	→	→	↘	→	→	→	↘	<ul style="list-style-type: none"> <li>・諸資材等の値上がり分は少しずつだが転嫁出来ている。しかし、度重なる資材の値上げに対して顧客への転嫁が追い付かず、収益圧迫の要因となっている。</li> <li>・顧客への継続的な値上げ交渉が収益確保の大きな課題であり、強気の資材メーカーと理解不足の顧客に挟まれた厳しい状況は続く予想される。</li> </ul>
化学・ゴム	医薬品製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原材料の価格上昇が続いている。</li> </ul>
窯業・土石製品	生コンクリート製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8月の県全体の生コンクリート出荷数量は、前年同月比11.2%の減少となっている。</li> </ul>
	コンクリート製品製造業	→	→	↗	→	→	→	→	↘	↘	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人手不足が続いている。</li> </ul>
	骨材・石工品等製造業	↗	→	↗	→	→	→	→	→	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・骨材需給について、生コン、二次製品業界は堅調に推移しているが、アスコン業界は低調な状況が続いている。</li> <li>・令和6年度骨材標準価格について値上げすることとなり、値上げ額を協議している。</li> </ul>

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備稼働率	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
鉄鋼・金属	銑鉄鑄物製造業	→	→	↗	→	→	→	↘	→	↘	・生産量は昨年同月をやや下回っている。 ・先行きの不透明感が依然として強い。
	銅・同合金鑄物製造業	↘	→	↗	→	→	→	↘	→	↘	・地金の高止まりが長期化している。
	アルミニウム製品製造業	→	→	→	→	→	↘	→	→	→	・特になし。
	建築用金属製品製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・鉄工業製造部門は、前年同月に比べて生産受注が持ち直し傾向にある。 ・コロナ禍前の水準まで景気が回復している。 ・材料費の高騰、溶接作業による電気代の高騰、製品運搬費の高騰、物価高による賃上げ等、課題が山積している。 ・人員確保が難しく、人材不足により受注を制限している企業もある。
	めっき加工業	↗	→	↗	→	↗	→	→	↘	→	・電気代の高騰を見据えて販売単価の引き上げを行ったため、売上は増加している。 ・電気代高騰による影響が予想より少なかったため、収益状況は好転している。 ・退職者がいるにも関わらず、求人が追いついていないため、雇用人員は減少している。
一般機器	金属工作機械製造業	↘	↗	→	→	↘	→	→	→	↘	・受注状況について、全体的(工具、軸受、油圧、工作機械、ロボット)に大幅に受注が減少しており、前年同月比82.23%となっている。 ・今後も業況及び受注の見通しが見えない状況である。 ・原材料価格高騰の影響により、収益悪化が続いている。
	金属加工機械製造業	↘	↘	→	→	↘	↘	↘	→	↘	・特になし。
	非金属用金型製造業	→	→	↘	→	↘	→	→	→	↘	・大企業の収益改善の波及効果なのか、一部に復調の兆しが見られが、未だ受注量確保もままならない企業は多く、原材料や経費増により事業益を計上出来ている企業は一部に限られている。企業の格差が広がっている状況である。
電気機器	電子部品・デバイス・電子回路製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・前年同月比ではほぼ横ばいの業況となっている。 ・秋以降、自動車関連では増産の情報が聞こえているが、人手不足は継続しており、増産の対応に追われている。 ・エネルギー価格の上昇、原材料価格の高止まり、円安による輸入単価上昇、加えて、採用・雇用改善コストの増加が影響し、利益率が低下している。
輸送機器	自動車部分品・附属品製造業	↗	↗	↗	→	↗	→	↗	→	→	・特になし。
その他の製造業	漆器製造業	→	→	↗	→	→	→	→	→	→	・中国での展示会の準備を進めていたが、原発処理水放出による中国からの抗議等が続き、中国への渡航、滞在に注意が呼びかけられているため、9月の出展をどうするか検討している。

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備稼働率	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
卸売業	セメント卸売業	↘	→	→	→	↘	→		→	↘	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組合扱いセメント袋と員外組合員のホームセンターの廉価袋の売値が大幅に乖離しているため、顧客は価格差に誘引され安価なホームセンターの袋に流れてしまい、組合取り扱い数量が減少している。</li> <li>・今後、取り扱い数量の回復に期待が持てないため、値上げ対応での売上維持を検討している。</li> </ul>
	非鉄金属製品卸売業	↘	↗	↗	↘	↘	↘		→	↘	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現場の人手不足や高齢化が深刻である。若者を積極的に採用したいが、給与を十分に支給出来るほどの売上や収益を確保出来ていないため苦慮している。</li> </ul>
小売業	鮮魚小売業	↘	→	↘	→	↘	→		→	↘	<ul style="list-style-type: none"> <li>・売上が伸びず、全体としては依然として景気が悪く、悪化傾向である。</li> </ul>
	食肉小売業	→	→	→	→	→	↘		→	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕入価格やエネルギー価格等の上昇により、収益性が悪化している。</li> <li>・8月は店舗によって売上状況の優劣が顕著に表われている。立地の影響が大きいようである。</li> <li>・コロナ融資の返済が始まり、資金繰りに苦慮している企業が多い。</li> </ul>
	野菜・果実小売業	→	→	→	→	→	→		→	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・富山卸売市場の売上高は、前年同月比101%、青果組合全体の売上高は、前年同月比98%となっている。</li> <li>・野菜全般、特に、青梗菜、小松菜、人参などが高温障害により不作である。</li> </ul>
	家庭用電気機器小売業	↗	↘	↗	→	↗	→		→	→	・特になし。
	自動車小売業	→	→	→	→	→	→		→	→	・特になし。
	ガソリンステーション	→	→	↗	↘	↘	↘		↘	↘	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カーボンニュートラルの進展に伴いガソリン等の需要減が見込まれることや、大手流通業者等による廉売激化、人材不足やドライバーの時間外規制などSSの経営環境は厳しさを増している。</li> <li>・先月に引き続き需要の回復感は弱く、ガソリン販売量について、お盆時期は観光地周辺の給油所は一部で数量が伸びたものの、ガソリン価格の高騰や物価高による節約志向や買い控えが響き、前年同月比で5%～10%減少の見込みである。</li> <li>・ガソリン販売価格については、石油元売りなどへの燃料油価格激変緩和補助金の補助率引下げの影響から、徐々に上昇傾向にあり、前年同月の価格を約20円超えている。</li> </ul>
	農機具小売業	↗	↘	↘	→	→	→		↘	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポットクーラーの引き合いが多く、その分売上が伸びている。</li> </ul>
	ショッピングセンター	→	→	→	→	→	→		→	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8月は、前年同月比で売上は102.5%、客数は99.2%となっている。</li> <li>・約半数近い来店客はマスクを外している一方で、館内従業員はマスク着用で接客を行っている。</li> <li>・真夏日が続いている中、電気料金が高騰しているため契約電力をオーバーしないよう気にしながら営業している。</li> </ul>
	ショッピングセンター	↗	→	↗	→	→	→		→	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・売上が増加している要因の一つに販売価格の引き上げが挙げられ、純粋な売上の増加分は小さいと思われる。</li> <li>・電気料金などコスト上昇が収益を圧迫している。</li> <li>・10月からの最低賃金値上げによる人件費の増加が懸念される。</li> </ul>

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
商店街	商店街	→	→	↗	→	→	→		→	→	・真夏日が続いたため商店街アーケードへの入込客は少なく、特にアーケードの売上の中心である高齢者層に猛暑が与えた影響は大きく、入込客の減少に繋がっている。 ・販売価格の引き上げにより売上は増加しているが、仕入れコストや各種経費の増加により、利益は落ちている。
	商店街	→	→	↗	→	↘	→		→	↘	・真夏日が続いた影響で物販関係の売上が悪い。 ・夏休みが重なり、飲食関係、特に夜間営業の飲食は大変好調である。
サービス業	クリーニング業	→		↗	→	→	→		→	↗	・原材料等の仕入価格が高騰しているが、利益に影響するほどではない。 ・ボイラーで使用する灯油代の高騰については経営に与える影響は大きく、厳しい状況である。
	飲食業	↗		↗	→	↗	→		→	↗	・売上が前年同月比で12%アップしているが、コロナ禍前と比べると11%減になっている。要因は夜の客の伸びにあると思われ、いかに夜の客を増やすかが課題である。
	建築設計業	→		→	→	→	→		→	→	・特になし。
	自動車整備業	→		→	→	→	→		→	→	・8月の自動車新車新規登録・届出台数は、前年同月比で12ヵ月連続で増加しているが、台数のうち軽自動車については2ヵ月ぶりの増加で全体を押し上げる結果となっている。材料や部品の供給不足による生産調整の影響は着実に縮小しているものの、現状の受注残を大きく解消するだけの生産体制の構築は依然として厳しい状態である。 ・受注残の解消後は、ウクライナ情勢や為替市場、物価高騰の状況によっては、自動車の車両価格が更に値上がりすることとなり、購買意欲が薄れ、新車販売台数の減少となることが予想される。 ・自動車整備事業者は、先進安全技術に係る特定整備制度の創設、自動車検査証の電子化、OBDを活用した自動車検査制度など、多くの制度改正に対応することを求められ、更に、新技術への対応、生産性向上、健全な経営の徹底、少子高齢化社会における自動車整備士の人材不足等の課題を抱えており、対応できない事業者は扱える車種が加速度的に減少していく状況である。
建設業	鉄骨・鉄筋工事	→		→	→	↘	→		→	→	・大型物件は、図面承認の遅延が一段と酷くなり、工場に空きが出たり、急な残業を余儀なくされたりと稼働率が大きく左右され採算を悪くしている。 ・中小案件の低迷により鋼材の荷動きが振るわず、鋼材の安売りが一部では見られるが、副資材、消耗品、輸送費、電気代などの高騰が加工費を圧迫しているため、仕事量確保のための安値受注は避けなければならない。
	一般土木建築工事	→		→	→	→	→		→	→	・特になし。
	管工事業	→		→	→	→	→		↘	→	・景況に変化はない。 ・設備・水道管共に公共工事の発注が各自治体に多く出されているものの、各組合員は配置技術者の確保がままならず、受注したいが出来ない状態である。 ・各種技術講習会や検定会を順次行い、資格有する技術員の確保を図っている。 ・水道工事に関する意見交換会を開催し、発注者と受注者が共通理解することでより安全・効率よく施工できるように意思疎通を図っている。
	電気工事業	↗		↗	→	↗	→		→	↗	・前年と比較して工事需要は回復しているものの、住宅着工件数の伸びが鈍化傾向にあるため、下期に影響が出る見込みである。
運輸業	道路貨物運送	→		→	→	↘	→		→	→	・燃料油価格激変緩和補助金の補助率引下げの影響から軽油価格が大幅に高騰し、8月は前年同月比+15.5円/ℓ前後、前月比+7.5で推移し、収益減少の要因となっている。
	道路貨物運送	→		→	→	→	→		→	→	・燃料価格について、前年同月比+16.26円/ℓ、前月比+7.6円と上昇している。 ・物量については、前年同月比98.4%で運賃値上げで辛うじて前年を超えている状況である。